

ひぐまっぷ：ICTを活用したヒグマ出没情報収集と共有の取り組み

ヒグマ出没情報を収集・視覚化 問題個体の出没状況を知り人とヒグマの「あつれき」を抑制！

(ひぐまっぷプロジェクト・森のくまさんズ【北海道森町-ひぐまっぷ開発チーム】)

【道南圏におけるヒグマ出没情報収集の現状・課題】

人とヒグマのあつれき減少のため必要なこと=ヒグマ生態調査

- ・タイムラグ：研究機関（環境研）へ情報が来るのは出没の翌年度
- ・事務負担：煩雑な市町村事務、市町村独自様式で情報精度バラツキ
- ・情報公開上の課題：住民への情報公開用の作業が別途必要
- ・情報共有の必要性：ヒグマは複数の市町村にまたがって生息

情報収集手段をクラウド化!

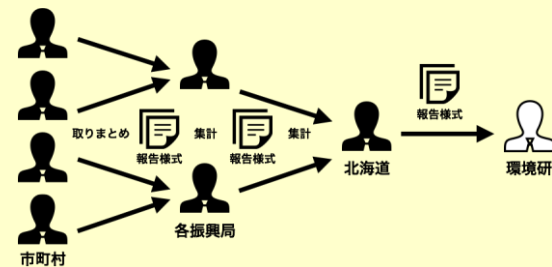
【ひぐまっぷ開発チームと市町村による実証実験】

- ・リアルタイム化：クラウド入力システムによってすぐに情報取得可
- ・負担軽減：入力の簡単な統一プラットフォームで情報精度の統一
- ・簡単な”見える化”：市町村ウェブサイトへひぐまっぷ埋め込み可
- ・情報共有：隣接市町村の出没状況も横断的に共有、分析可

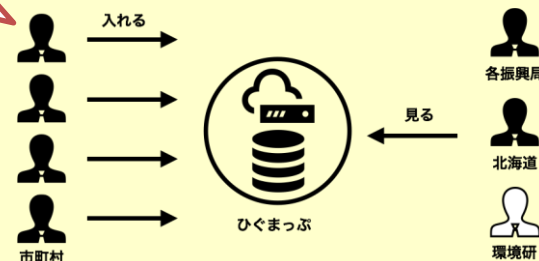
市町村間で共通の業務を、同一プラットフォーム上で実施し、データの互換性を確保

- ①市町村をまたぐ広域的な分析
- ②利用しやすいデータの公開を実現

単一市町村だけではなく地域で利用することでデータの価値が増加（2017年は道南20市町村で運用）



↓ 煩雑な事務がクラウド化によりシンプルに! ↓



収集情報精度の向上と市町村業務の大幅な効率化

ひぐまっぷ導入によるコスト対比

	導入前	導入後
市町村事務量	1,240時間	420時間
市町村コスト	2,215千円	750千円

66% 減!!

業務の効率化によって、地域全体で**66%のコスト削減**。(道南20市町村が1年間利用した場合)。他、GIS化作業がある市町村もあるため、それらを含めるとさらにコストダウン。

拡張・展開の可能性

収集情報のオープンデータ化により、民間ベースでの自由な分析や周知なども可能となり、現在はLINE botを民間団体が製作中。また、これによる報告システムなどの提案も受け、新しい可能性が見えて来ている。

ひぐまっぷシステムは、カスタマイズする事で、ヒグマ以外の鳥獣対策や不審者情報など、他分野への展開が可能。同システムを基にしたビジネスも視野に入れている。(要相談)

